

知事との県民対話集会（山形村）概要

- ・開催日時 令和5年3月28日（火） 午前10時30分から正午まで
- ・会場 山形村農業者トレーニングセンター 2階ふるさと大ホール
- ・参加者 県民34名、本庄山形村長、阿部知事、草間松本地域振興局長 他
- ・テーマ 農業振興について

・主な発言（要旨）

【参加者】

- ・新規就農者への補助金の継続をお願いしたい。

【知事】

- ・国の補助金がベースになってるので、それが続いている県でも続けることになると思う。
- ・皆さんと共有したいのは国の補助金に依存する都道府県行政はやめた方がよいということ。国からのお金で行う事業は不安定であり、財源や権限の分権を進めたいと思っている。その点については協力してほしい。

【参加者】

- ・新規就農者の農地や農機具などの初期費用軽減のために離農者とのマッチングができないか。

【知事】

- ・農業を辞めることを躊躇している高齢者も多い。次の世代にどうバトンタッチするか、マッチングの話はしっかり考えていきたい。

【参加者】

- ・長芋のシェアが全国3位で4%。成分分析やブランディングにより他地域と差別化する必要がある。研究や販路拡大に県も力を貸して欲しい。

【知事】

- ・G7のレセプションでも関心を持たれたのは本県の健康長寿。ただし、エビデンスが乏しく掘り下げる必要がある。そういう意味で長芋の成分分析をしっかりやっていくように考えたい。販路拡大についても取り組んでいきたい。

【参加者】

- ・遊休農地について、水田であった面積の小さいものは、アシなどが覆い茂っていて、再生するには苦勞する。数万円の村の補助金だけでは厳しい。新規就農者は、遊休農地に手を付けないといけなくなる。再生技術や補助金などで遊休農地がなくなっていくとよいと思う。

【三田農業農村支援センター所長】

- ・遊休農地の補助金は国のものが主体だが、現状十分ではないと思う。

【知事】

- ・来年度の予算編成で議論のテーマにするように、農業農村支援センターから農政部に伝えてほしい。問題提起をしていただいたので、議論をしていきたいと思う。

【参加者】

- ・農業を理解し、承継してもらうため、小学生を対象に農業体験など教育現場に農業を取り入れることはできないか。

【知事】

- ・授業の内容については地域差があるため、学校の先生の理解と協力を得ながら、地域や学校で考えてもらいたい。単に通知を出して、こういった授業をやってでは、多忙な先生のやることが更に増えるだけになる。

【参加者】

- ・長芋を特産として維持できるよう、原種保存をしてほしい。

【知事】

- ・種子法の改正の際にいろいろと議論があり、県では条例をつくって、しっかり守っていく方向で取り組んでいる。長芋の扱いがどうなっているのか確認し、原種が承継されていくよう取り組んでいく。

【参加者】

・山形村は長芋の他に白ネギの栽培も盛ん。収穫時等に皮をむくとにおいが出る。今の時期はまだいいが、暖かくなると問題になる。また、長芋の残渣など産業廃棄物の処理について、村や県で考えてもらえるとありがたい。

【三田農業農村支援センター所長】

・白ネギのにおいについて、最近では住宅と農地が近くなり課題が多い。地域の理解を得ながらやっていくことが大事だと考えている。

【知事】

・残渣の処理について、ごみが増えるとCO²も増えるため、有効利用が重要。そういう部分の研究は県や国レベルで行う必要がある。宿題にさせてもらいたい。

【参加者】

・新規就農者へのフォローが少なく、里親に預けてそれっきりの印象がある。新規就農者は不安ばかりで農業を諦めてしまう人もいる。定期的に声掛けをしてほしい。顔を見に来てもらうだけでも勇気が出るはず。

【知事】

・里子のフォローについて、県職員が行うのは難しいと思う。全てを県職員が行うと高コストになってしまう。地域の人たちや新規就農者の先輩、若手・中堅農家がメンター的に関わる仕組みが必要と感じたので、そういった観点で工夫したい。

【参加者】

・山形村の土は非常に細かく、機械化で効率優先にしているため費用が掛かる。また、農薬も使うため微生物は死んでしまう。団粒構造の土は、保水力も高く、根も張りやすい。風食の原因となる土でなく、団粒構造の土での農業を山形村でもできるのではないかと。農業県としての取組を根本的に見直してほしい。

【知事】

・持続可能な農業にしていくことが一番重要。農薬や肥料を地球環境と調和した形で減らしていく。農薬の基準が日本は欧州に比べると緩いと感じていて、環境調和型の農業に転換していかないと持続可能性は損なわれる。そういう視点を持ちながら中長期的に考えていきたい。

【参加者】

・混交林にすると、保水能力が高まる。そういう林業を主導するなど、県として林業政策を再考してほしい。

【知事】

・主伐・再造林ガイドラインを作成し、環境や景観に配慮しながらやっていこうと考えている。すべてに対応できるか分からないが一定の課題意識はあり、数十年後を想定して取り組んでいきたい。

【参加者】

・早期退職し就農した。第2の人生で農業を始める人が何人もいる。新規就農は若い人への支援が中心で、第2の人生向けの支援がほとんどないため、支援をお願いしたい。

【知事】

・国全体から見ると理にかなった補助制度かも知れないが、長野県の実情を見ると第2の人生の就農者も多い。人生を一つの仕事で完結する世の中ではなくってきていると思っているので、問題意識を持って取り組みたい。

【参加者】

・品種改良は10年かかる。レタスは品種改良が進みすぎて、お金が取れなくなって来ている。品種改良にあたっては、味を考慮していただきたい。気候変動に強いとか、誰でもつくりやすいとかだけではなく、美味しくお金を取れる方向へ転換してほしい。

【知事】

・試験研究機関に直接話を聞いたことはないが、少なくとも味を無視しているとは考えにくい。果樹系は味わいを最優先にしている、そうしないと誰からも買ってもらえなくなる。野菜系でそうした点が不足しているのであれば、ご指摘いただいた内容を踏まえ考えていきたい。